

寺子屋

の運営をつじた 人づくり、地域づくり

「地域で寺子屋」モデル事業

(平成24年度)

背景・課題・目的

- 勉強したいが、地域に学習塾がない
- 家に帰っても遊び相手がいない

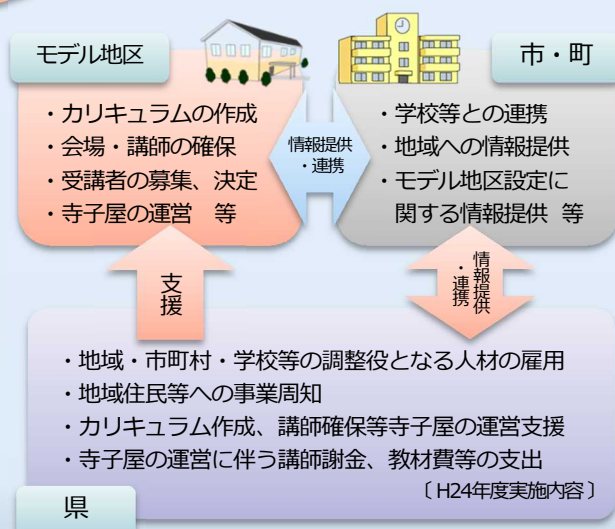
- 地域の方々が持っている豊富な知識
- 地域の伝統文化が継承されていない危機感

公民館エリア単位の
地域づくりが展開

- 地域づくり活動の一環として、地域で子どもを育てる機運を醸成
- 地域住民が主体となって子どもたちに勉強や地域の伝統文化等を教える「寺子屋」のモデル形成

運営スタイル

タイプ	対象者	実施時期 頻度	実施内容	講師
学習支援・ 地域教育 併用タイプ	小学生	毎週 数日程度	学習プリントの丸つけ、授業補習、地域の伝統行事・文化等の伝承、田舎体験 等	保護者、元教師、 地域運営組織、 学生、NPO法人等
学習支援 集中タイプ	中学生	夏休み・冬休 みなどの長期 休暇 5~10日程度	主に受験対策 理解度に応じた きめ細やかな 指導	中学校又は高等学 校の教員免許状所 有者またはそれに 相当する知識・能 力を有する方



実施イメージ

問題意識

地域の話し合いの場をはじめ様々な場面で、少子化や学校の統廃合により「地域で子どもを見かけることが少なくなった」、「学校から帰ってきて近所に遊ぶ友達がいない」といった声が聞かれるほか、高齢化や住民意識の変化などにより、地域の伝統文化・歴史等が次世代に受け継がれないといった課題は多くの地域で共通しています。

また、地域に暮らす保護者からは「地域に学習塾等がないため塾に通わせることが困難」、「共働きのため学校が終わってからの子どもの過ごし方が不安」といった声も聞かれます。

そこで、主に学習塾がない中山間地域において、地域運営組織等が主体となり、地域の方々が持っている様々な知識・ノウハウを最大限活用しながら、子ども達に対する学習支援や地域の伝統文化などを教える取り組みを行う「寺子屋」の運営モデルをつくるとともに、その仕組みを他地域に波及させることにより、地域コミュニティの維持・活性化や、次世代定住を促すきっかけづくりとして「地域で寺子屋」モデル事業に取り組みました。

モデル地区

モデルづくり開始にあたり、県西部圏域9つの市町地域振興担当課および教育委員会にモデル地区を募集しました。その結果、3市町から推薦された計4地区をモデル地区として選定しました。

選定されたモデル地区では、地域の状況に応じ、①学習支援・地域教育併用タイプ、②学習支援集中タイプ、以上2つのスタイルによって「寺子屋」運営が進められました。

実際の「地域で寺子屋」の運営は、週・月に併せて定期的に行われるものや、夏休み等の長期休暇に集中的に行うものもありました。

また、公民館が実質的に運営を担っているケース、地域運営組織や有志が集まった任意団体が運営を担っているケースと様々です。会場は公民館や学校などの公共施設のみならず、地域内の交流拠点であるサロンで取り組まれたものもあります。

カリキュラムについては、教科別のテキストを活用した予習・復習等の学習支援の一方、軽スポーツ、昔の遊び体験や森の学校、自然体験も取り組まれています。

運営の様子



地区名	M市T地区	Y町K地区	M町O地区・D地区 (2地区で実施)	
タイプ	学習支援・地域教育併用タイプ	学習支援集中タイプ	学習支援・地域教育併用タイプ	学習支援集中タイプ
実施主体	連合自治会	中学校PTA	任意団体	
実施場所	地区の公民館	地区内の中学校	O地区：地域内のサロン D地区：集会所	O地区：山村開発センター D地区：林業開発センター
実施時期	7/9～2/28 (うち毎週月・水・木)	7/30～8/24、12/25～12/27 のうち、計20日間	7/19～2/28 (うち毎週火・木)	2/16、2/17
概要	・宿題の丸つけ ・軽スポーツ ・お餅づくり体験 等	・5教科の復習 ・森の健康診断 ・食育体験 等	・宿題やテキストによる復習・基礎学習 ・地域学習（伝統文化、歴史など）の学習 ・百人一首 等	・模擬テスト 等
1回あたり参加者数	小学1～4年生 7～10名程度	地区内の中学生18名 他校中学生3年生 50名程度	各地区の小学生 10～20名程度 ※中学生も参加	各地区の中学3年生
講師	・元体育教師ほか	・地区内団体・住民等	・任意団体の会員 ・地域内団体・住民等	・任意団体会員 ・大学生 ・高校非常勤講師
講師謝金	1,000円/時間	1,000円/時間	1,000円/日	1,000円/日
特記事項	一部活動では農産物加工施設を活用	8/8～8/10実施分は、町内の他校中学生、町内の高校生、地元出身大学生も講師として参加	毎月第2、第4木曜日には地域の現状や課題を学習する「地域学習」を実施	8/16～8/18、町教委主催によるサマースクールを実施

Q どうやって児童・生徒を募集したらいいの？

A 小学校、中学校を経由してチラシを配布したり、子ども会などで参加を呼び掛けたりして募集！学校の協力が心強い！

Q 地域の人はどうに寺子屋運営に関わりますか？

A 主に地域学習の場で講師として参加していただくほか、学習支援の場でもまる付けなどを手伝ってもらうことも。ある地区では、昼食づくりを地域の食生活改善推進員の方で行うなど、様々な場面で地域の方が寺子屋の運営に協力！

Q どのように地域学習の機会を設ければいいの？

A 地域内で行われている既存の活動・行事（草刈り・盆踊り・常会）などを寺子屋の地域学習の一環と位置付けて子どもの参加を促すことや、共同で作業を行うこともポイント！

Q 保護者の理解・協力を得るためには？

A 事前に寺子屋の趣旨や目的、実施内容をしっかりと説明しておくことが必要。保護者の方が集まる場で直接説明するほか、保護者の方に寺子屋参観をしてもらうことも手！

Q 活動の予算や財源は？

A 内容によるものの、一定程度運営費が必要に。財源については、地域づくりの交付金や、保護者等が一定程度負担することも。あるモデル地区では、児童・生徒一人当たり500円を集金し、会場の使用料や冷暖房費に活用！

Q&A

まとめ

実際に「寺子屋」を運営したモデル地区からは、学習習慣づくりのきっかけになるなど、家庭学習の支援という側面の効果だけではなく、寺子屋を通じた世代間交流が実現したとの声がありました。

また、地域の大人の立場から見ても、これまであまりなかった子どもたちとの繋がりが生まれることや、地域内の他行事と寺子屋の活動との連携が生まれること等に

よって、固定化・硬直化していた地域活動を柔軟にする効果もみられています。

一方、講師の安定的な確保やスキルアップ、会場の確保、子どもたちの移動手段や活動する財源をはじめ、継続的な運営に向けた課題も考えられました。

運営に携わった担当者は、堅苦しくなく楽しく取り組むことこそが取り組みを円滑に行う一番のコツと指摘しています。